

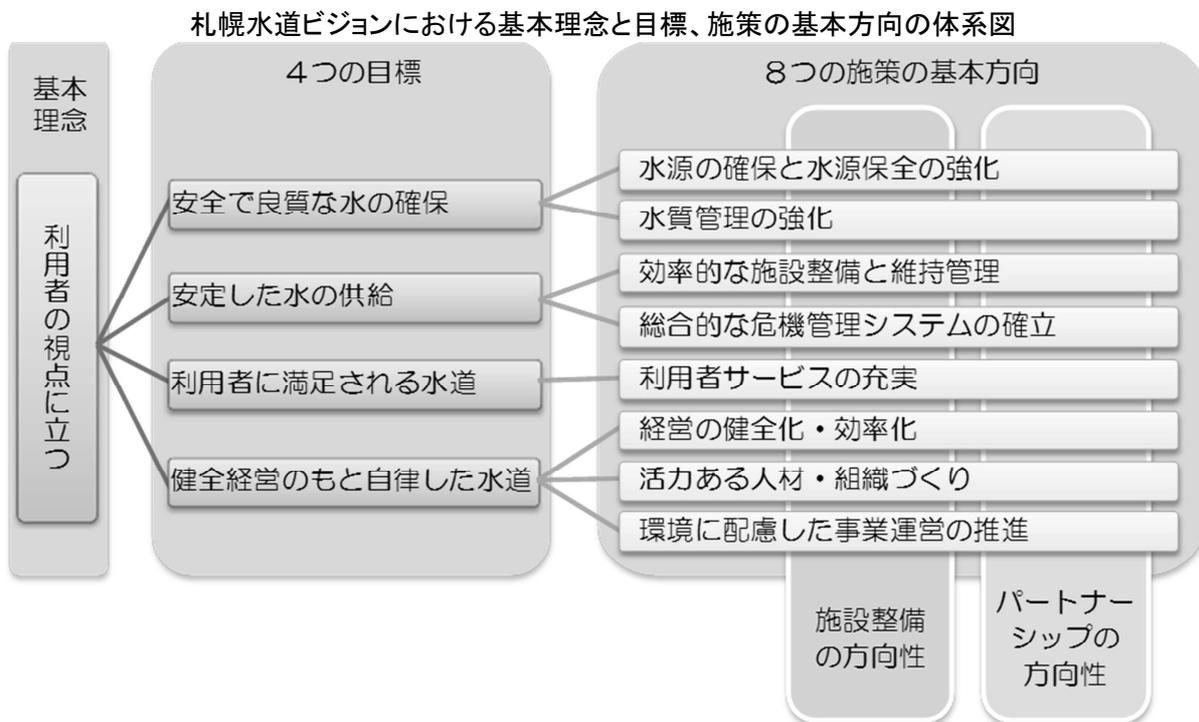
## 構想編

### 基本理念と目標

「札幌水道長期構想」の基本理念と4つの目標は水道事業にとって普遍であり、50年、100年後の札幌水道においても継続して達成することが重要であることから、これらの理念と目標は札幌水道ビジョンでも継承していきます。

また、「札幌水道長期構想」では目標を実現するために8つの施策の基本方向を示し、さまざまな取組を進めてきました。

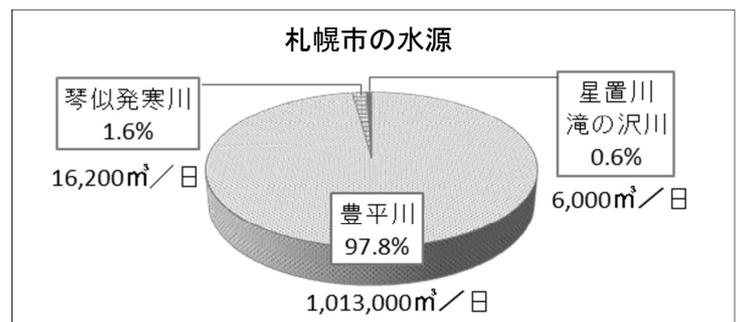
札幌水道ビジョンにおいても施策の基本方向を踏襲しつつ、現状と課題や今後の事業環境を踏まえ、社会経済情勢の変化に対応するため、施設整備とパートナーシップ（連携）の方向性を盛り込んだ取組を進めていきます。



### 札幌水道の主な課題

#### 水源・水質

- 豊平川への依存度が高く、水源の一極集中状態の改善が必要
- かび臭や油の流入のほか、局所的な豪雨に伴うがけ崩れによる急激な濁度上昇への対策
- 水質悪化を未然に防止するため、関係機関や水源域の事業者、市民との連携による水源保全の取組継続
- 浄水処理技術の向上など、水質管理の強化



## 水道施設

- 浄水場の改修工事中も安定給水を継続するために必要な供給能力の確保
- フェンスや門扉などの改修による施設の保安強化の計画的な推進
- 耐震化のさらなる推進
- 業務継続計画（BCP）の策定
- ブロック配水システムの機能向上

施設の耐震化の状況(平成 24 年度末現在)

	札幌市	全国
浄水施設の耐震化率	18.6%	21.4%
配水池の耐震化率	66.5%	44.5%
基幹管路の耐震適合率	36.6%	33.5%

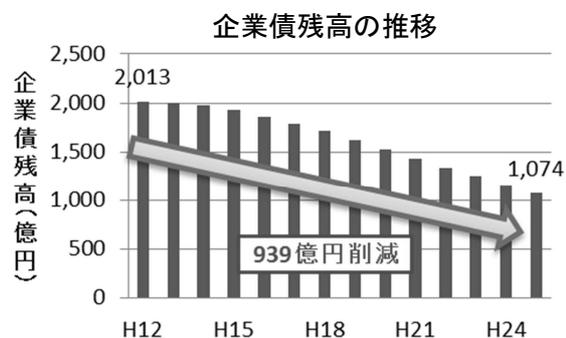
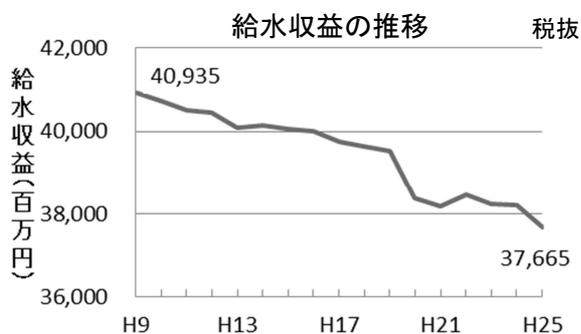
厚生労働省ホームページ「水道施設の耐震化の推進」より

## 利用者サービス

- 小規模貯水槽水道の衛生管理の徹底
- 給水装置に起因する水質汚染の防止
- 給水装置の多様化による逆流防止対策の強化
- 利用者の声を積極的に聞き取り、事業運営に反映させる仕組みの充実

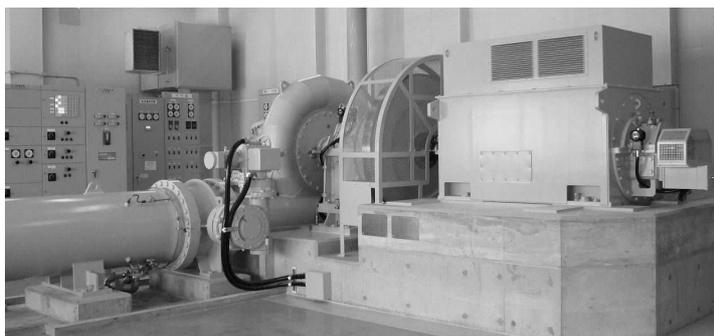
## 経営

- 給水収益の減少と事業費の増加
- 財務基盤の強化の継続



## 環境

- 再生可能エネルギーのさらなる活用



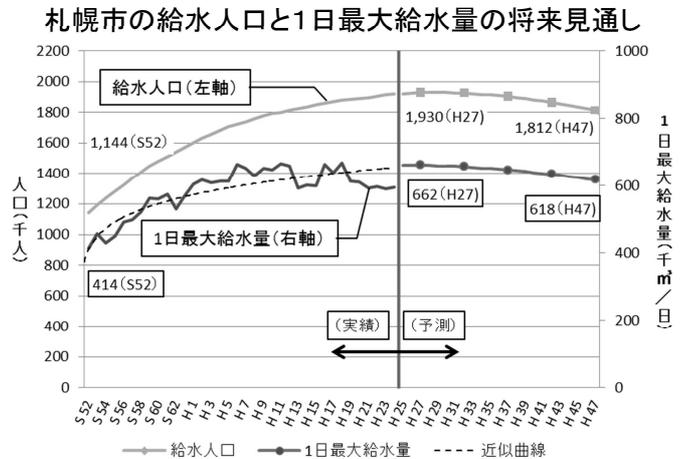
藻岩浄水場の水力発電設備



配水センターの太陽光発電設備

1 人口減少社会の到来と水需要の減少

- 札幌市の人口は平成 27 年（2015 年）前後をピークに減少傾向に転じると予測
- 将来水量の推計では、平成 27 年度（2015 年度）をピークとして水需要の予測値が初めて減少傾向となる見通し
- 水需要の減少に伴う施設規模の適正化が必要



2 東日本大震災の教訓

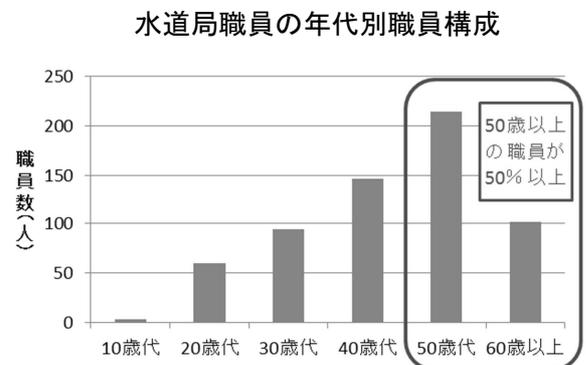
- 施設の耐震化や多重化のほか、被災時に応急復旧のための資器材や浄水場で使用する薬品等を調達可能とする体制など災害対策のさらなる充実が必要
- 家庭での飲料水備蓄の推進など、市民との連携や広報活動の充実が重要
- 低炭素社会と脱原発依存社会の実現に向けたエネルギー面での取組の推進が必要

3 施設の大規模更新期の到来

- 水道創設からまもなく 80 年を迎え、今後初めての大規模更新期を迎える
- 更新に当たっては将来の水道システム全体を見据えた総合的な検討が必要
- 更新事業を担う人材を確保するため、出資団体や民間企業、教育・研究機関などとの連携による人的資源の確保が必要

4 技術力低下のおそれ

- 水道局の職員構成は 50 歳以上の職員の割合が 50%以上を占め、技術やノウハウを次世代の担い手へ確実に継承していくことが必要
- 水道事業は多くの企業等にも支えられており、関係団体との連携をさらに強化することが重要
- 水道全体の持続的な発展の観点から、北海道内の他水道事業体の課題解決に向けて取組を進めていくことが必要

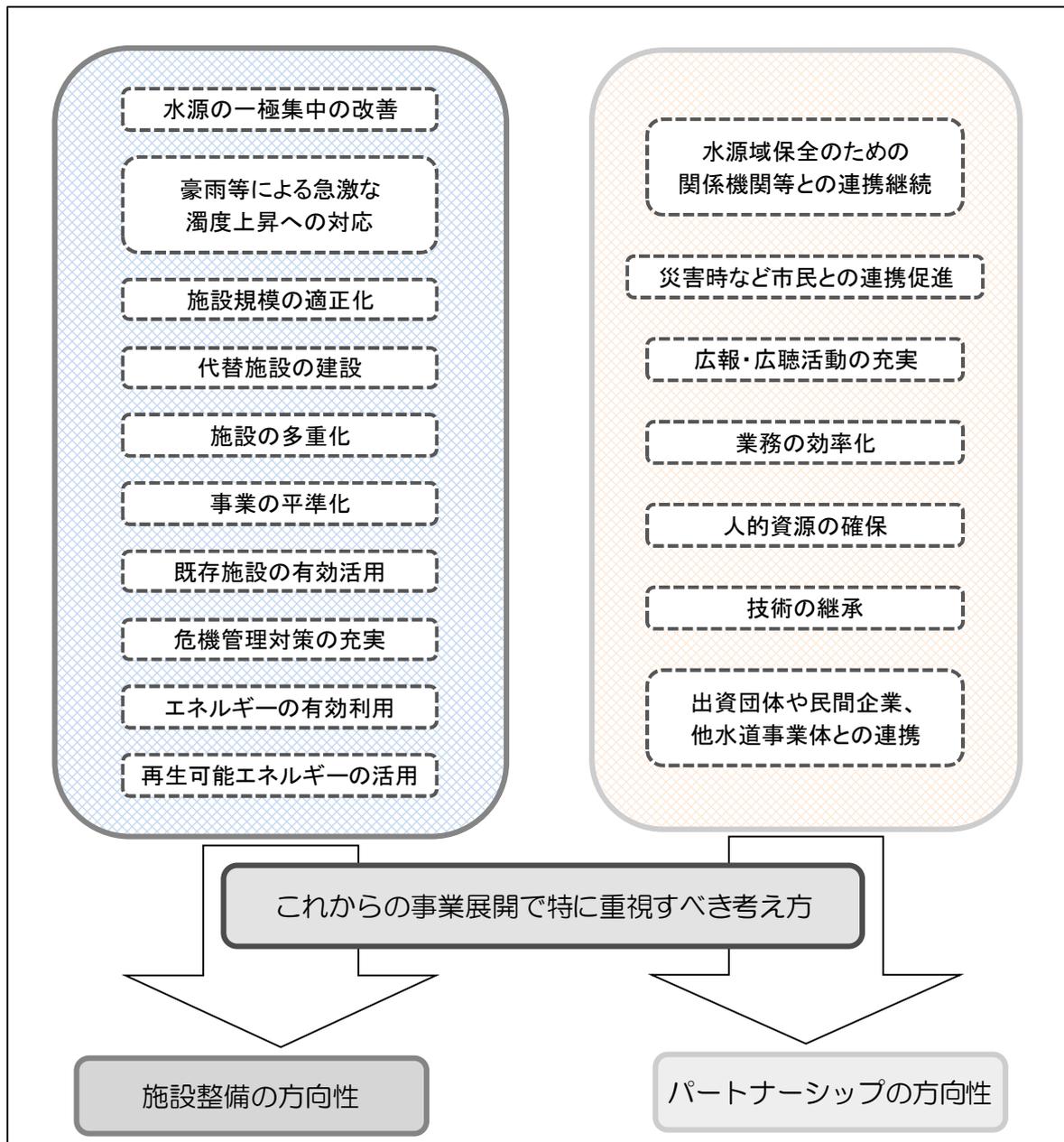


## 次世代水道に向けた考え方

市民の生命や健康に直接関わる水道事業は、地方公営企業による運営を前提として、さまざまな課題に的確に対応し、柔軟かつ効果的に事業を進めていく必要があります。

そのため、「次世代に引継いでいく施設の整備」と「さまざまな課題の解決に有効な手段となるパートナーシップ（連携）の活用」をこれからの事業展開において特に重視すべき考え方と位置付け、それらの取組の方向性を以下にまとめました。

### これからの事業展開で特に重視すべき考え方につながる課題



## 施設整備の方向性

### <視点Ⅰ>安全で安定した安心感のあるシステム

- 水源・浄水機能の分散配置
- 耐震化の推進
- 水源の水質の保全
- 応急給水施設の充実
- 適切な浄水処理技術の導入

### <視点Ⅱ>将来へ引き継ぐための持続可能なシステム

- 適切な施設規模の確保
- 長寿命化・延命化
- 代替能力の確保・多重化
- 更新事業の平準化
- 供給予備力の確保

### <視点Ⅲ>自然の恵みを生かした効率のよいシステム

- エネルギー効率のよい施設配置
- 再生可能エネルギーの活用（水力、太陽光）
- 最新技術と効率的な運営形態の導入検討

## パートナーシップの方向性

### <視点Ⅰ>利用者とのパートナーシップ

- 水道事業に関する情報共有や意見交換などの推進
- 利用者との連携による危機管理体制の構築

### <視点Ⅱ>事業運営におけるパートナーシップ

- 委託業務の範囲や内容の見直し
- 連携による人的資源の確保

### <視点Ⅲ>次世代に向けたパートナーシップ

- 共同研究、研修会の実施
- 最新の技術や事業手法などの検討

### <視点Ⅳ>道内水道事業体とのパートナーシップ

- 技術情報の共有化
- 共同研究会や技術研修会の開催
- 災害対応の充実
- 水道サービス協会などとの連携による発展的広域化

### <視点Ⅴ>海外とのパートナーシップ

- 国際貢献の推進
- 寒冷地水道に適した技術を生かした技術交流や海外展開